



# 紫雲児の心

## 主体的に行動できる人間を目指して

校長 五十嵐 めぐみ

6月6日(火)の午前中に、紫雲寺保育園、紫雲寺小学校、紫雲寺中学校の3校園で、合同避難訓練を行いました。紫雲寺中学校の周辺には、中学校より高い建物がありません。高台也没有。万一、地震が発生し、大津波警報が出された場合には、近隣で一番高い紫雲寺中学校の3階に避難するのが最善の方法だろうと、今から7~8年ほど前に、当時の保育園長と小・中学校長が話し合い、合同避難訓練が始まりました。コロナ禍のために、ここ数年は実施できていませんでしたが、今年度、ようやく再開することができました。

訓練後の生徒の振り返りには、「いざという時のために、こういう訓練をしておくことが大切だった。」「保育園児が真剣に避難していて驚いた。」「災害時は、まず自分の命を守り、余裕があったら幼い子やお年寄りの手助けもできるようにしたい。」などと、きちんと訓練の様子を振り返り、有事に備えて日ごろから準備しておくべき事を、主体的に考えていました。紫雲寺保育園や紫雲寺小学校の出身生徒は、幼かった頃にこの合同避難訓練を経験していますが、中学生になった今、当時とは違った見方・考え方ができるようになったようです。成長を感じます。

東日本大震災の際に、岩手県釜石市の釜石東中学校の生徒が、地域住民と協力して、中学校に隣接する小学校の児童を支えながら高台を目指して避難したことは、「釜石の奇跡」と言われ、「避難のお手本」とされています。釜石東中学校では、「助けられる人から助ける人へ」という目標を掲げ、日ごろから、小学校との合同避難訓練を行ったり、消防団と連携して負傷者の搬送方法を確認したりしていたそうです。震災が発生した時には、小学校の校舎内でパニックになっていた児童を励ましながらか一緒に避難したり、保育園児を抱きかかえたり、園児が乗っている手押し車を押す大人を手伝ったりして、一緒に高台に避難したそうです。避難所では、おびえる小学生を中学生がなだめ、安否確認に役立てるための避難者カードを作ったり、率先して避難所の掃除をしたりと、小学校高学年の児童や中学生は、自分にできることを考え、主体的に行動したと伝えられています。当時、小学校6年生だった人は、「どう行動すれば良いかを自分で考えるようになった。」と振り返っています。



災害時には、まず第一に、自分の命を守ることを考えなければなりません。しかし、中学生ともなれば、大人と同じように、誰かを救う行動に貢献し、人の役に立つ行動ができるはず。小さな子どもやお年寄り、身体の不自由な方などの「災害弱者」を支え、多くの命を守るために、主体的に行動を起こせる人になってほしいと願います。

災害は、いつ、どこで発生するかわかりません。「いざという時に、自分はどの行動すれば良いか。自分には何ができそうか。」を、日ごろから考えておくことが大切です。是非、各ご家庭でも話題にしてみてください。